

各区のまちづくりの取組



札幌市の花—スズラン

札幌近郊の原野や火山灰大地にみられるユリ科の多年草で、6月ころに鈴形の白い小さな花を穂状に咲かせます。

札幌市の木—ライラック

モクセイ科の落葉かん木で花の色は大別して白と紫の2色あり、アメリカ人が札幌へ持ち込んだのが日本で最初といわれています。



札幌市の鳥—カッコウ

ホトトギス科の渡り鳥で鳴き声からこの名がついたといわれ、鳴き声は世界的に有名で、大きな毛虫を好んで食べます。

中央区



(シンボルマーク)

〈概況〉

中央区は、北区と東区とはJR函館本線で、白石区と豊平区とは豊平川で、南区と西区とは南西部山地の稜線で境界を接し、文字通り市の中央部に位置している。

明治の初め以来、札幌の中心として計画的なまちづくりが進められ、官庁や企業の近代的なビルが立ち並ぶ一方、円山や藻岩山、豊平川など豊かな自然にも恵まれている。

また、時計台や札幌市資料館などの歴史的な建造物が多く残り、札幌コンサートホールKitara(キタラ)、札幌オリンピックミュージアムなどの文化施設や、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)、創成川公園、札幌市北3条広場(アカプラ)、もいわ山ロープウェイも整備されるなど、魅力ある都市空間を形成している。



▲市民の憩いの場となっている大通公園

〈まちづくりの取り組み〉

中央区は、まちづくりセンターを地域活動や情報交流の拠点として、住民、企業、学校、活動団体などが連携を深めるとともに、アダプトプログラムによる環境美化活動の推進のほか、多世代スポーツイベントの開催など、安心安全で住みよい環境づくりや、地域のにぎわい・ふれあいのあるまちづくりに取り組んでいる。

また、区内各所の歴史や文化、まちづくりの取り組みなどを集約したデジタルマップ「まちのモトマップ」や、区内の各施設を巡りながら、地域の魅力を体感する周遊企画「まち『推し』ラリー」

により、区のあらゆる魅力を発信する取り組みを行っている。

このほか、令和4年度に誕生したマスコットキャラクター「中ウォークン」を活用し、区の取組みのPRや地域に対する愛着の醸成を図っている。



▲中央区マスコットキャラクター「中ウォークン」



▲地域のお祭りに参加する「中ウォークン」

[区内の主な施設]

施設名	内容
札幌市資料館 (大通西13)	札幌控訴院(後の札幌高等裁判所)として、大正15年に軟石を使って建てられた貴重な建物。
WEST19 (大通西19)	夜間急病センターや札幌市保健所などで構成される札幌市の「保健・医療・福祉」の拠点施設。
札幌コンサートホール Kitara (中島公園1-15)	札幌の音楽芸術のシンボリック的存在。世界水準の音響設備を整えたホール。
大倉山ジャンプ 競技場 (宮の森1274)	冬季五輪の90m級ジャンプの舞台にもなった、世界的にも有名な競技場。

HP <https://www.city.sapporo.jp/chuo/>



中央区ホームページ
「市電のふるさと中央区」

面積 46.42km²
世帯数 148,231世帯
人口 253,736人
(令和5年10月1日現在)

北 区



(シンボルマーク)

〈概 況〉

北区は市の北部に位置し、東は創成川と旧篠路村境界で東区に接し、西は新川を境に西区と手稲区に接している。また、南はJR函館本線で中央区に接し、北は発寒川、茨戸川、石狩川を境に石狩市、当別町と隣接している。

地形は平坦で山がなく、多くの河川や屯田防風林など、特徴的な自然景観を有している。また、地質・地盤は南地域の一部を除き、粘土質の土ならびに泥炭からなり、軟弱である。

昭和20年代までは、区の南部が市街化しており、他の地区は農業・酪農地帯であった。30年代に入り、札幌市の人口規模の急膨張に並行して、新琴似、屯田、篠路地区などの市街化が進んだ。その後、あいの里などの地域も市街化が進み、現在、人口は約29万人と10区の中で最も多い。



▲百合が原公園

〈まちづくりの取り組み〉

北区では、地域住民や学生と連携した各種まちづくり活動をはじめ、高齢者等が安心して暮らせるよう、地域連携による見守り支え合い活動の推進や、健康寿命延伸を目指した健康づくりなどを地域住民と協働で行っている。

また、「北区歴史と文化の八十八選」や「農村歌舞伎」のPR等、地域の特色ある歴史や文化を生かした取組や、隣接市町との交流による活力あるまちづくりを進めている。

さらに、令和4年8月より、北区北部地域の区民の利便性向上を図るため、篠路出張所の機能拡

充を行い、出張所の増築とバリアフリー化、福祉分野19項目の窓口サービスを新たに開始した。



◀ ぽっぴい

平成31年春、北区のまちづくり全般を担うキャラクターとして「ぽっぴい」が認定され、以来、お祭りやイベント等様々な場面で活動し、地域の方々に親しまれている。

[区内の主な施設]

施設名	内 容
札幌サンプラザ (北24条西5丁目)	音楽ホールや温水プール、会議・研修、宿泊、レストラン等の複合施設として運営。また、館内に就業サポートセンターを設け、職業紹介やセミナー等の支援を実施。
男女共同参画センター (北8条西3丁目)	男女共同参画をテーマにしたセミナーや女性が抱える悩みなどの各種相談を行うほか、ホール、研修室などを用意。
消費者センター (北8条西3丁目)	消費生活に関する相談や消費生活セミナーなどを開催するほか、資料の展示や商品テストを実施。
市民活動サポートセンター (北8条西3丁目)	ボランティアやNPOなどのさまざまな市民活動をサポートする拠点。
環境プラザ (北8条西3丁目)	環境に関する知識やイベント活動情報を得ることができるほか、普段の生活が環境に及ぼす影響などについても知ることができる。
下水道科学館 (麻生町8丁目)	クイズやゲーム、パネルなどの展示物で下水道のしくみや役割などを楽しみながら学ぶことができる。
百合が原公園 (百合が原公園210番地)	ユリなどの多種類の草花、樹木を栽培し、約2,000種類の植物を1年を通じて楽しめる温室や、各種庭園、パークゴルフ施設などもある。

HP <https://www.city.sapporo.jp/kitaku/>



北区ホームページ
「みてきて北区」

面積 63.57km²
世帯数 142,598世帯
人口 288,346人
(令和5年10月1日現在)

東 区



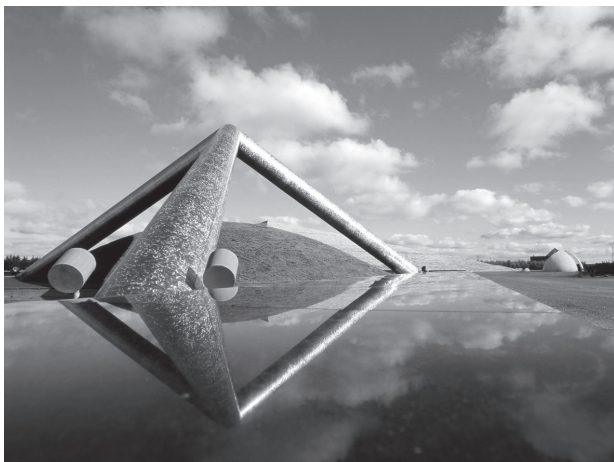
(シンボルマーク)

〈概 況〉

東区は札幌市の北東部に位置している。東は白石区・江別市・当別町と、西と北はを創成川と旧篠路村境界で北区と、南はJR函館本線を境に中央区と接している。人口は北区に次いで2番目に多く、約26万人となっている。

東区は農業、工業、商業の三拍子がそろったバランスの取れたまちである。農業では、経営耕地面積が10区中2番目の広さであり、東区の特産であるタマネギのほかコマツナを多く栽培している。工業では、明治時代からの工業地帯である苗穂地区にJR苗穂工場や大規模な食品工場があり、丘珠地区には鉄工団地がある。

東区には大規模施設が相次いで整備されている。平成7年に「札幌市農業体験交流施設（さとらんど）」、9年に「札幌市スポーツ交流施設（つどーむ）」がオープンした。17年には故イサム・ノグチ氏の設計による「モエレ沼公園」がグランドオープンとなり、いずれも札幌を代表する施設として多くの市民が利用している。



▲モエレ沼公園（テトラマウンド）

〈まちづくりの取り組み〉

東区では、区役所と区民・企業・各種団体との連携を深めながら、地域の特色を生かした「区民が主役のまちづくり」を進めている。

主な取り組みとしては、安全安心なまちづくりを目指して、各地区の自主防災活動を支援するとともに、若年層や子育て世代等の多様な世代に対

する防災普及啓発を実施している。

また、東区と協力して地域貢献を行う企業・団体等（タッピーフレンズ）と連携しながら、魅力と活力にあふれるまちづくりを進めている。



▲令和4年に30周年を迎えた東区のマスコットキャラクター「タッピー」。さまざまなイベントに登場して愛くるしい顔と姿で区民らに広く親しまれている。

さらに、区内の大学や専門学校等と連携したひがしく健康・スポーツまつりや、東区を拠点に活動する女子サッカーチーム「ノルディーア北海道」の区民応援デーなど、幅広い世代の方々が気軽に健康づくりやスポーツに触れられる取り組みも実施している。

〔区内の主な施設〕

施設名	内 容
札幌市農業体験交流施設（さとらんど） （丘珠町584ほか）	農業体験ができる「体験農園」や「ふれあい牧場」がある。
モエレ沼公園 （モエレ沼公園1ほか）	故イサムノグチ氏が基本設計をした公園。ガラスのピラミッド、モエレ山、海の噴水などの印象的な造形物が広大な空間に配置されている。
札幌市スポーツ交流施設（つどーむ） （栄町885ほか）	四季を通じて、スポーツやレクリエーションを楽しむことができる全天候型多目的施設。

HP <https://www.city.sapporo.jp/higashi/>



東区ホームページ
「ようこそひがしく」

面積	56.97km ²
世帯数	133,388世帯
人口	263,774人
	（令和5年10月1日現在）

各区の取組

白石区



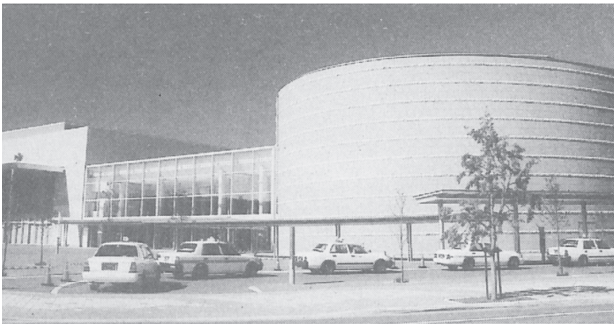
(シンボルマーク)

〈概況〉

白石区は市の東部に位置し、北側は江別市と、南は東北通を境に豊平区及び清田区と接する。また、東は厚別区、西は豊平川を境に中央区と東区に隣り合う。

区内には、JR線、地下鉄東西線、国道12号、道央自動車道などの各種交通網が整備されており、本市の交通の要衝となっている。

また、区の東部には、流通センターが広がっており、道内の物流拠点となっているほか、「札幌コンベンションセンター」や「JICA北海道(札幌)」などの施設があり、本市の集客交流や国際交流の拠点としての役割も担っている。



▲札幌コンベンションセンター

〈まちづくりの取り組み〉

白石区では「白石区に住んで良かった・住み続けたい」と思える魅力あるまちづくりを進めるために、目標①「安全・安心で快適に暮らせるまち」、目標②「地域のチカラ、魅力の向上」、目標③「区民のための区役所」を掲げている。

目標①を実現するため、「安心して暮らせるまち」として、地域防災力の強化のほか、子育て支援の充実、地域福祉の向上に取り組んでいる。また、「快適で憩いのあるまち」として、環境にやさしいまちづくり、健康づくりの推進、より快適な冬期環境の実現に向けた取り組みを進めている。

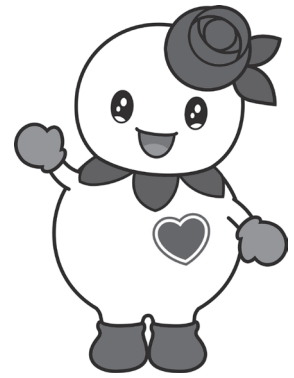
また、目標②を実現するため、「元気で活力のあるまち」として、札幌市未来へつなぐ町内会ささえあい条例に基づく支援、区民や企業自らによるまちづくりへの支援、新たなにぎわいを創出するための取り組みを実施しているほか、「魅力を

創造するまち」として、まちの魅力の発見・発信、宮城県白石市や登別市と連携した魅力向上にも取り組んでいる。

さらに、目標③を実現するため、絶えず窓口対応や庁舎案内の改善などの検討を行っているほか、広報さっぽろやホームページなどを活用した情報発信を行っている。

これらの取り組みの一環として、区内の地域団体・企業等で構成される「白石区ふるさと会」と「白石区ふるさとまつり」や「白石でっち奉公(小・中学生就労体験)」などの事業を共催している。

白石区のマスコットキャラクター「しろっぴー」は、雪だるまをモチーフとしたフォトコンテストなど、様々なイベントに登場し、多くの市民に親しまれている。



▲しろっぴー

【区内の主な施設】

施設名	内容
アクセスサッポロ (流通センター4丁目)	各種イベント・展示会、会議などの開催が可能な多目的スペース。
札幌コンベンションセンター (東札幌6条1丁目)	大規模な会議や展示会などさまざまなイベントの開催が可能な総合型コンベンション施設。
札幌市産業振興センター (東札幌5条1丁目)	地元企業の人材育成や創業支援、技術開発などを行う地域産業支援施設。
札幌市民防災センター (南郷通6丁目北)	防火・防災に関する知識や、災害時にとるべき行動を楽しみながら学ぶことができる体験型施設。
白石こころード (道道札幌恵庭自転車道線)	白石区内を東西方向に横断する自転車と歩行者の専用道路。
川下公園 (川下2651番地)	健康運動施設「リラックスプラザ」を備える総合公園。

HP <https://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>



白石区ホームページ
「おもしろいし WEB」

面積 34.47km²
世帯数 111,443世帯
人口 211,362人
(令和5年10月1日現在)

厚別区



(シンボルマーク)

〈概況〉

厚別区は、市の東部に位置し、北東は江別市と、南東は北広島市と接する。また、南は清田区と、西は厚別川、一部三里川を区境に白石区と隣り合う。面積は24.38平方キロメートルと10区の中で最小である。

地形はJR函館本線を境に、北の平野部、南の丘陵部に大きく分かれ、丘陵部は厚別川、野津幌川、三里川、小野津幌川が流れ、全体にゆるやかな起伏となっている。

街並みはJR新札幌駅、地下鉄新さっぽろ駅付近を中心とした商業地区と周辺の住宅地からなるが、野幌森林公園など豊かな自然環境にも恵まれている。



▲多くの区民でにぎわう「厚別区民まつり」

〈まちづくりの取り組み〉

より多くの区民がまちづくりに関心を持って、地域の課題に積極的に取り組める機会を設けるため、「あつべつ区民協議会」への支援を行い、区民を主役としたまちづくり活動を推進している。

さらに、厚別区のにぎわいの中心である新さっ

ぽろ駅周辺地区では、現在、大規模複合開発によって、より魅力的に生まれ変わろうとしており、区では、再整備したふれあい広場あつべつを活用したイベントの誘致を進めるほか、「厚別区民まつり」をはじめとするイベントの開催支援を行うなど、活力ある厚別のまちづくりを目指した「新さっぽろ駅周辺地区のにぎわいづくり」を進めている。

各区の取組

〔区内の主な施設〕

施設名	内容
青少年科学館 (厚別中央1-5)	教育普及活動を目的とした理工系博物館(博物館法の規定による公立博物館)、社会教育法の規定による社会教育機関であるとともに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定による教育機関。
札幌テクノパーク (下野幌テクノパーク)	情報通信関連の産業を新たな都市型先端技術産業として定着させ、次代を担う主力産業に育成することを目的に、札幌市が整備した研究開発型の団地。
厚別公園競技場 (上野幌3-1)	道内唯一の第1種公認陸上競技場であり、またコンサドーレ札幌のホームゲームも行われる主競技場を持つスポーツ公園。
野幌森林公園 (厚別町小野幌)	野幌丘陵に位置し、札幌市・江別市・北広島市の3市にまたがる2,053haの道立自然公園。

HP <https://www.city.sapporo.jp/atsubetsu/>



厚別区ホームページ

面積	24.38km ²
世帯数	58,387世帯
人口	122,789人
(令和5年10月1日現在)	

豊平区



(シンボルマーク)

〈概況〉

豊平区は、札幌市の南東部に位置し、北は東通で白石区、西は豊平川を隔てて中央区、南西部は南区、東は清田区と接している。

望月寒川・月寒川・吉田川などの河川、また南部には緑豊かな丘陵地や山林があるなど、豊かな自然に恵まれている。また、「札幌ドーム」などのスポーツ施設のほか、「さっぽろ羊ヶ丘展望台」などの観光施設や大学・研究機関も充実している。



▲区のシンボルであるリンゴの並木

〈まちづくりの取り組み〉

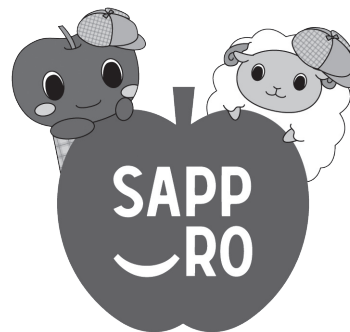
豊平区では、「スポーツ」、「健康」、「安心安全」をキーワードにまちづくりを進めている。

区民を対象としたフィギュアスケートやタグラグビーの体験会、札幌ドームでのスポーツイベントの開催、健康フェアや健康セミナー、ウォーキングマップの配布、花植えにより美しい街並づくりを目指す「とよひらHANA-LAND」、区にゆかりの深いリンゴの活用など、地域や学校、企業、プロスポーツチーム等と連携しながら、豊かな自然や恵まれた施設環境といった区の特長を生かした事業を展開している。

また、防災・防犯・交通安全に関する知識の普

及啓発にも力を入れている。

区のキャラクター「こりん」と「めーたん」も、区や地域が行う各種事業に登場するなど、区のPRや区内の魅力を発信するために活躍している。



▲区のキャラクター（こりん・めーたん）とリンゴの形を取り入れたロゴマーク（アップルスマイル）

〔区内の主な施設〕

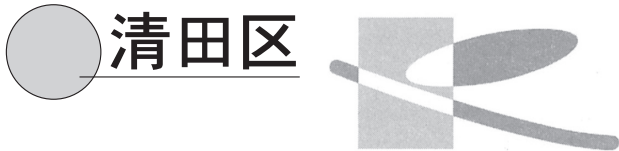
施設名	内容
札幌ドーム (羊ヶ丘)	天然芝と人工芝を交換できる「ホバリングシステム」を導入した全天候型多目的施設。
どうぎんカーリング スタジアム (月寒東1-9)	カーリングの普及・振興、大会開催、体験型観光などのための通年型専用施設。
北海道立総合体育センター (北海きたえーる) (豊平5-11)	各種スポーツ、文化・教養的なイベント開催などにも対応できる総合的な施設。
さっぽろ羊ヶ丘展望台 (羊ヶ丘)	クラーク博士のブロンズ像が立つ、市内を代表する観光名所の一つ。
豊平公園 (豊平5-13)	旧林業試験場北海道支場の跡地に造られ、園内には庭園見本園や花木園などもある。
月寒公園 (美園10-7ほか)	明治の終わりに「干城台」と名付けられ、陸軍歩兵第25連隊の小演習場として使われていた歴史がある公園。
西岡公園 (西岡487ほか)	水源池を中心として、野鳥やホタルも見られる自然豊かな公園。
天神山緑地 (平岸1-18ほか)	標高89mの天神山は、市街や遠くは石狩まで眺望でき、緑地内には日本庭園、平岸林檎園記念歌碑などもある。

HP <https://www.city.sapporo.jp/toyohira/>



豊平区ホームページ
「夢ひらく花ひらくとよひらく」

面積 46.23km²
世帯数 123,217世帯
人口 227,163人
(令和5年10月1日現在)



清田区

(シンボルマーク)

〈概況〉

清田区は市の南東部に位置し、白石区、厚別区、豊平区、南区、恵庭市、北広島市の4区2市と接している。区域のおよそ3分の2は、緑豊かな丘陵地と山林に覆われ、南北に縦断するあしりべつ川(厚別川)をはじめとする多くの河川や、白旗山を有する市最大の市有林があり、雄大な自然を身近に感じることができる。

区内には梅の名所として知られる「平岡公園」や、庭園や樹木を楽しむ「平岡樹芸センター『みどりーむ』」のほか、200を超える公園、緑地が整備されている。自然と調和した街並みが作られており、持ち家率は10区の中で最も高い。

また、国際スキー連盟公認のスキー距離競技場である「白旗山競技場」があり、夏はサッカー場、冬はクロスカントリースキーのコースとして開放されているほか、2017冬季アジア札幌大会の会場やワールドカップサッカーのキャンプ地として活用された実績もある。

平成30年の北海道胆振東部地震において、大きな被害を受けた里塚地区については、令和3年度までに公園の再整備を含めた全工事が終了した。



▲きよフェス 2023

〈まちづくりの取り組み〉

清田区では、「多くの方が行き交い、安心して住み続けたいまち」を目指し、地域団体と協力しながら、区民の満足度を高めるとともに、区外からの交流人口の増加に取り組んでいる。



▲きよたスイーツ売店ときよっち

これを実現するため、4つの取組テーマ(①賑わいづくりの拡大、②区内外への情報発信、③多様な地域活動と交流の促進、④子育て世帯、高齢者の取組充実)を掲げ、ふれあい区民まつり、きよたマルシェ、きよフェス等のイベント、スイーツ店を巡るスタンプラリー、豊かな自然に触れるネイチャーツアーなど、産官学が連携しながら区民と協働のまちづくりを進めている。

〔区内の主な施設〕

施設名	内容
あしりべつ郷土館(清田1-2)	清田で発掘された石器や、明治から昭和の時代に実際に使われていた昔の生活道具や農機具などを展示。
平岡公園	敷地面積66.4haの総合公園。散策路や遊具広場、パークゴルフ場やテニスコートなども完備。1,200本の梅の木が植栽された梅の名所としても有名。
平岡樹芸センター「みどりーむ」(平岡4-3)	日本庭園や西洋庭園などがあり、8種約800本のモミジ、サクラ並木も見どころの一つ。緑の相談コーナー、図書コーナーなどを設置。
白旗山競技場(真栄502-1)	国際スキー連盟公認のスキー距離競技場と、ナイター設備を完備した2面の天然芝サッカーグラウンドを有する。
白旗山都市環境林	約1,062haの市有林。自然観察の森、札幌ふれあいの森とそれらをつなぐ自然歩道があり、四季折々の自然を満喫できる。

HP <https://www.city.sapporo.jp/kiyota/>



清田区ホームページ
「きよた Fan 倶楽部」

面積	59.87km ²
世帯数	46,060世帯
人口	110,020人
	(令和5年10月1日現在)

各区の取組

南区



(シンボルマーク)

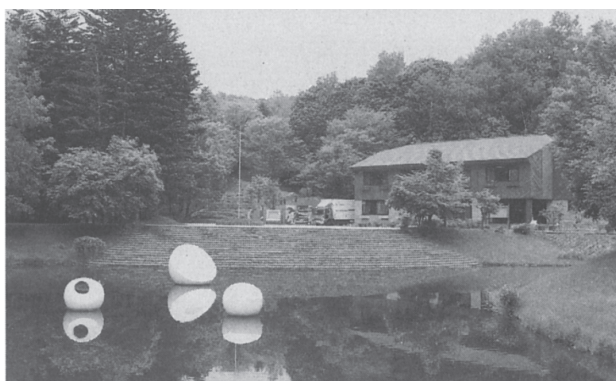
〈概況〉

南区は、市の南西部に位置し、小樽市、千歳市、恵庭市、伊達市、京極町、喜茂別町そして赤井川村の4市2町1村と接している。面積は657.48km²で全市域の約60%を占め、南北に37.6km、東西に33.2kmの広がりをもつ。区内には無意根山や空沼岳など標高1,000mを越える山々がそびえ立ち、真駒内川をはじめとした大小100余りの河川が豊平川へと注いでいる。市街地は平坦な北東部とこれらの河川に沿って形成されている。

豊かな自然に恵まれた区内には、滝野すずらん丘陵公園や真駒内公園など大規模な公園・緑地や市民の水がめである豊平峡ダム、定山溪ダムがあるほか、札幌国際スキー場など多くの憩いの場が整備されている。

農業は果樹栽培が盛んで、観光果樹園は市民の人気を集めている。また、150年以上歴史のある定山溪温泉には、市内外から毎年多くの観光客が訪れている。

このほか PMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル）や、札幌国際芸術祭が開催された札幌芸術の森や軟石採掘場跡を造成した石山緑地など、新しい芸術文化の発信地となっている。



▲芸術文化の発信地である札幌芸術の森

〈まちづくりの取り組み〉

南区では、地域の皆様の安心・安全で豊かな暮らしを守るため、福祉・健康・子育て、防災、道路・公園の維持管理などの取組を進めるとともに、豊かな自然環境をはじめとした区の魅力のPRに



▲大自然に囲まれた定山溪と定山溪ダム

も力を入れている。

南区ゆかりの有識者で構成するミナミナク・アートプロジェクトでは、区内にキャンパスのある札幌市立大学や東海大学などの若い世代や、地元アーティストと連携し、アートを通じた心豊かで魅力あるまちづくりを進めている。また、手作りの氷や雪のキャンドルで地域を彩る「雪あかり」は、冬の風物詩として親しまれている。

そのほか、まちづくりセンターの地域自主運営が進んでおり、まちづくりセンターを拠点として、地域住民が主体的に取り組むまちづくり活動を支援している。

〔区内の主な施設〕

施設名	内容
札幌芸術の森 (芸術の森2-75)	丘陵地にある総合芸術施設で、40haの緑の中にはPMFの会場となる野外ステージがある。
石山緑地 (石山78-24)	札幌軟石採掘跡を整備した都市緑地で、数々の彫刻が独特の景観を形作っている。
定山溪温泉	毎年多くの宿泊者が訪れ、札幌市の奥座敷として親しまれている。
豊平峡ダム・ 定山溪ダム	豊平川の治水や水道用水供給などの利水を目的とした多目的ダム。豊平峡ダムは紅葉の名所として親しまれている。

HP <https://www.city.sapporo.jp/minami/>



南区ホームページ
「ゆたかな緑きよらかな水みなみ区」

面積 657.48km²
世帯数 62,705世帯
人口 133,921人
(令和5年10月1日現在)

西 区



(シンボルマーク)

〈概 況〉

西区は、市の西部に位置し、東側は中央区に、南西側は山岳地帯に沿って南区に、西側は手稲区に、そして北東側は新川と琴似川をはさんで北区に接している。10区の中で南区に次いで2番目の広さがあり、区の中央部を流れる琴似発寒川の扇状地として発展した。

区の北側、発寒北地区には鉄工団地などを有し、札幌市産業の重要拠点の一つとして地場産業が根付いている。区の中央、琴似地区は古くから札幌の西の拠点として、区役所などの公共施設やさまざまな商業施設が集まり、発展を遂げている。また、宮の沢地区に生涯学習総合センター（ちえりあ）が、八軒地区に西健康づくりセンターが整備され、多くの市民の活動の場として利用されている。



▲コトニジャズ（地下鉄琴似駅にて撮影）

〈まちづくりの取り組み〉

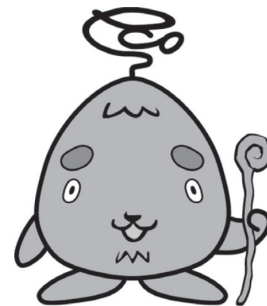
西区では、市内唯一の環境推進区として、SDGs（持続可能な開発目標）の視点を踏まえつつ、「誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり」「地域の豊かな自然環境や文化芸術を生かしたまちづくり」「市民感覚を大切にしたい地域とともに進めるまちづくり」を区政運営の方針として、区民が主役の持続可能なまちづくりを進めている。

各施策の主な取組としては、区職員、学校職員及び地域住民による避難所開設訓練等の実施や、子育てを支援する「こそだてインフォメーションさんかくやまベエのへや」の運営などを通じて、

誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりを進めている。

また、琴似発寒川の一斉清掃、やまめの稚魚放流をはじめ、「西区環境まちづくり協議会」を中心とした、区民や企業と共に行う環境に優しいまちづくりを進めるとともに、「西区文化フェスタ」「コトニジャズ」「コトニクラシック」を開催するなど活発な文化芸術活動を生かしたまちづくりを展開している。

さらに、二十四軒手稲通（通称：ラベンダー通り）では、沿道の住民・企業との協働によりラベンダーの植栽や植樹柵の除草など、地域とともにまちづくりを進めている。



▲環境キャラクターさんかくやまベエ

〔区内の主な施設〕

施設名	内 容
札幌市生涯学習総合センター（ちえりあ）（宮の沢1-1）	「集い、学び、研修する」をテーマに生涯学習センターなど4つの機能が集まる複合施設。
五天山公園（福井423）	西区初の総合公園として平成21年度にオープン。パークゴルフ場やバーベキューコーナー、自然観察ができるホタルの小川などがあり、休日には多くの家族連れでにぎわっている。

HP <https://www.city.sapporo.jp/nishi/>



西区ホームページ
「Hello！西区」

面積 75.10km²
世帯数 106,969世帯
人口 217,412人
(令和5年10月1日現在)

手稲区



(シンボルマーク)

〈概況〉

手稲区は、市の北西部に位置し、小樽市、石狩市に接している。市内でもとりわけ自然に恵まれた地域であり、特に南西部には区のシンボルである手稲山を始めとする山々が広がっており、乙女の滝の優美な姿、春の桜や秋の紅葉は多くの市民の目を楽しませているほか、登山、ハイキング、スキー、スノーボードといったスポーツ、レクリエーションの場としても親しまれている。

また、手稲山口地区を中心に栽培されているカボチャ（大浜みやこ）やスイカ（サッポロスイカ）などの名産品は、テレビ番組や雑誌などで紹介されるなど多方面から注目を集めている。



▲手稲山

▼冬はスキー



〈まちづくりの取り組み〉

手稲区では、「人に優しいまちづくり」と「ふるさと手稲づくり」をまちづくりの目標に掲げ、魅力ある区の地域資源を活用しながら、区民が住んでいて良かったと実感できるまちづくりの実現に向けて取り組みを進めている。

夏の風物詩「ていね夏あかり」、生涯スポーツ社会実現を目指した「スポーツ・レクリエーション祭」などの区民との協働によるこれらの取り組みは手稲区を代表する行事として定着している。

また、JR手稲駅橋上化とあわせて整備された

「あいくる」は、手稲区のにぎわいづくりの拠点であり、区民の文化・芸術活動の紹介の場として積極的に活用されている。

平成21年には、マスコットキャラクター「ていぬ」が誕生し、区主催の行事をはじめ、地域や商店街等のイベントにも登場しているほか、SNSなどをとおして区のイメージアップと地域の活性化に活躍している。



▲手稲区の夏の風物詩として定着した「ていね夏あかり」とマスコットキャラクター「ていぬ」

〔区内の主な施設〕

施設名	内容
前田森林公園 (手稲前田591)	野球場やパークゴルフ場、600メートルのカナル(運河)など、さまざまな施設がある総合公園。
星置スケート場 (星置2-1)	札幌出身の故江守栄作氏により昭和60年に寄贈された屋内スケート場
手稲稲積公園 (前田1-5)	雄大な手稲山の自然を一望できる運動公園。野球場やテニスコート、パークゴルフ場などのスポーツ施設が充実している。

HP <https://www.city.sapporo.jp/teine/>



手稲区ホームページ
「ていねっていいね」

面積 56.77km²
世帯数 62,322世帯
人口 141,389人
(令和5年10月1日現在)